



アエファ

# AEFA 通信

NPO法人 アジア教育友好協会

〒150-0014 東京都港区芝3-3-10 芝園オーシャンビル8F  
電話 03(6426)0720 /FAX 03(6426)0721

## ～フレンドシップ交流で子どもたちに伝えるもの～ 第2回 AEFA フォーラム 開催！

フレンドシップ校の先生、教育委員会、関係団体の方、総勢50名が参加し、交流について意見交換が行われました。

10月27日（土）に「第2回AEFAフォーラム」が日本財団ビルの会議室で開催され、成功裡のうちに幕を閉じました。

「フレンドシップ交流で子どもたちに伝えるもの」という主題のもと、相模原市立藤野南小学校の事例発表から始まり、5名の小中学校長の皆さんによるパネルディスカッション、最後に全員が6グループに分かれ意見交換が繰り返されました。

「参加してよかった。」「交流の具体的ヒントがつかめた。」「皆さんの熱意を強く感じた。」という感想の数々から伝わってくるものは、「子ども同士の交流」を語り合う中で、「参加者間の交流」が行われたという、まさに「フォーラム」のいきいきとした内容とその成果でした。各グループ、熱い意



見が飛び交いました。

主催する私たちは、もう来年のフォーラムに思いを馳せています。

「ほかの学校の交流事例をもっと知りたい。」

「日本のフレンドシップ35校のネットワークをつくってほしい。」来年のフォーラム実現までにも、まだまだやるべきことがたくさんあります。

AEFAスタッフ一同、また原点に戻って気持ちを新たに、皆さんの貴重なご意見を参考にしながら、今後の事業に取り組んでいきたいと思えます。

引き続きのご支援を、どうぞよろしくお願いいたします。

### 第1部：パネルディスカッション

遠田先生（藤野南小）の事例発表を受けて、各学校での取り組み、交流への想いが話し合われました。

ぎんなん募金で、ラオスの子どもに寄付している。小学生同士同じ目線で、アジアの子どもたちにぎんなん募金を通して何かできればと思っている。（杜松小・山岸校長先生）

竹炭を販売し、タイの小学校に寄付している。「明日の地球を考える」というテーマのもと、環境教育でサムソップ小学校とつながりたいと思っている。（小山田小・西岡校長先生）

以前勤務していた学校には、ベトナム難民の子どもが多かったが、学内での交流を通して、お互いに理解するようになった。ドイツの日本人学校で「顔が見える交流」を経験をしたこともあり、国際交流や直接体験



パネラー/西岡校長先生、山岸校長先生、瀬野尾校長先生（左より）

を通して、子どもに「違い」を知ってもらいたいと思っている。（二俣川小・瀬野尾校長先生）

タイの子どもたちの勉強に対する意欲はとても強く、私自身も勉強することの有り難さに気付いた。ツアーに参加して、カレンの人々のやさしさ、心の美しさが一番心に沁みだ。村人の心を有り難く受取り、私たちもできることをしていきたいと思った。（静岡英和女学院高等学校OG・薩川さん）

「出会い、ふれあい、分かち合い」という言葉があるが、藤野南小学校の子ども、ベトナムの子ども、遠田先生、それぞれが喜べる、いいものを分かち合える交流になった。（藤野南小学校・滝澤校長先生）

学校内で、外国人生徒に対するいじめがあり、人権教育と国際教育の必要性を強く感じている。交流校のティントウオン小学校も、親の80%はハンセン病という学校なので、本校としても意味のある交流になると期待している。（保土ヶ谷中・木村校長先生）



パネラー/滝澤校長先生、木村校長先生、薩川さん（左より）



## 第2部：グループディスカッション

6つのグループに分かれ、交流について、それぞれの思い、期待することなど、様々な議論が展開しました。

### <グループA>

・絵や写真の交流で、お互いの“違い”を伝え合う。  
・心のやさしさや家族愛や信頼関係など、日本で失われてしまったようなものをもらっていることに気づかせたい。

・外国の子どもが「いのち」をどう考えているかを知りたい。

### <グループB>

・アジアで学校を作り、いきいきと学ぶ現地の子どもたちは、日本の子どもたちを救うことにつながっている。

・アジアの子どもたちのキラキラした瞳は、親に感謝し、兄弟姉妹を大事にしている家族愛、人を大切にす

る道徳の心からである。  
・現地との交流はギブ&テイク。日本の子どもたちに道徳心など、大事なことを伝え続けることは、子どもたちがこれから世界に飛び立ち、多様な生き方のできる人間になることへの助けになればいいと思う。

### <グループC>

・「ドラえもん」の絵～日本とアジアと、お互いにドラえもんのストーリーを作って交換する。

・交流は、打ち上げ花火的ではなく、「心」を残し、地域に浸透するような動きをしていきたい。

・教師の「引き出し」の多さ&大きさ、情熱、人間力によって、子供たちに伝えられるものが変わってくる。

### <グループD>

・国際交流は、点でなく、線でつながる交流が大事。  
・文化は違っても、同じ生活をしているという認識を

しないといけない。

・できるところから取り組み、国際交流の意義、大切さを伝えることから始めるといい広がりをするのではないかなと思う。

### <グループE>

・タイの絵から環境問題を考えさせられ、身近な所で、同じような問題があるのでは？と考える機会にもなる。また、この絵では見えないところ（住んでいる人たちの生活や、抱えている問題）を想像させ、ふくらませることもできる。

・アジアの子どもと、写真、絵の交換などの交流によって、文化の違いを感じたり、日本のことをもっと勉強するようになる。

### <グループF>

・細く長期的な取り組みが大切。（最初はクラブ活動など少人数の活動から始めて、広げてゆく）

・交流作品を見せて紹介するだけでなく、先生から、正しい情報と深い内容の補助説明が大切。



タイから届いた絵（上・下とも）



↑ベトナムから届いた絵  
アジアから届いた作品を見ながら、話し合いが行われました

## 参加者のアンケートより

### （フォーラムのよかった点）

・具体的な実践事例を聞くことが出来、ヒントをもらったので、交流に見通しがもてたこと。（特に藤野南小の発表がよかった）

・学校だけでなく、様々な立場の人の意見を聞いたこと。  
・グループディスカッションで、具体的な材料を使って話し合えたことがよかった。

### （フォーラムの改善点）

・交流で苦労している点、問題点、今後の課題を聞きたかった。

・現地の学校やNGOからの意見や情報を聞いてみたい。

### （その他・感想）

・企業としても、資金だけでなく人的な面も含めた定期的なサポートを行なわなければならないと感じた。

### （AEFAへの要望）

・現地の教育事情についてや、現地の人々の要望（何を考え、何を望んでいるのか）を伝えて欲しい。

・他の学校での取り組み事例を具体的に教えて欲しい。

・フォーラムに校区の地域の人々の参加を実現したい。

・交流スケジュールのシートは良い。学校として、作品を出しやすくなる。

・出前授業がとてもよかった。年に1度はお願いしたい。



### <来年のAEFAフォーラムへの提案など>

**場所** 次回は都内の学校を借りてフォーラムを開催したい

**参加者** 校長先生だけでなく、現場の先生、PTAの方も参加して頂き、一緒に交流を考えてもらいたい

**今後の交流で伝えたいもの** もっと「現地の学校に行けない子どもの現状」など、伝えたいものを明確にしていきたい。

※今後、皆様のご意見を参考にし、交流をよりよいものにしていきたいと思っております。ありがとうございました。